

## 日本大学医学部 N方式(2期) 二次試験 英語

2024年 3月17日実施

### PASSAGE 1

1. ③                      2. ②                      3. ①                      4. ①                      5. ②  
6. ③                      7. ②                      8. ④                      9. ②                      10. ①

<解説>

- sec 1 より、呼吸法はストレス関連の問題を ease 「和らげる」もの。
- anchor は多義語だが、ここでは現在の心理状態を「維持する」ために呼吸法が役立つという文脈。
- sec 3 で、呼吸法によって more in touch with your mind (後略) と述べられているように、「自分の感情にもっと寄り添う」ことができるということ。
- ネガティブな感情を貯めこむと、筋肉の緊張といった悪影響が「現れる」ということ。
- 呼吸法は「さらに磨くことのできる技術」、つまり「改善できる」ものであるということ。
- chronic は「慢性的な」は重要単語で覚えておくべきだが、一時的なストレスのみならず「～なストレスはこれらの症状を悪化させることがある」という文脈からも推測したい。
- 本文 Chest Breathing の項目を参照すると、great exertion つまり短距離走などで有用な呼吸法と述べられており、「激しい運動」で活用できる呼吸法ということが分かる。
- sec 7 の箇条書きの最後の項目で、「お腹に集中すること」と述べられており、④「主として胸で呼吸を感じるべき」は本文の内容に合致しない。
- 本文全体の内容から「呼吸」を意味する名詞が適切。
- sec 9 で、呼吸を整えることは simple でありながらも生活改善に役立つものだとまとめられている。

### PASSAGE 2

11. ③                      12. ④                      13. ③                      14. ①                      15. ④  
16. ④                      17. ③                      18. ③                      19. ③                      20. ②

<解説>

- a sense of relief 「安心感」とともに sorrow 「悲しみ」や anger 「怒り」といった気持ちが列挙されており、「色々な感情がないまぜ」になっていたことが読み取れる。
- bulletproof はもともと「防弾」という意味だが、ここでは夫の認知症発覚前は、退職してこれから老後を楽しもうとする「安心な」暮らしを予期していたという文脈から推測したい。
- 「意思疎通が影響を受け始めていた」という意味を作りたいが、主語が communication、述語動詞が begin であるため、to 不定詞ないし動名詞が必要で、さらにその後に interfere with ～「～を妨げる」を受け身の形にして be interfered with とつなげる。
- radically で「急激に、劇的に」。
- Sec 3～4 では、夫に言語障害の症状が現れた結果、自分の欲求を十分に伝えられなくなった様子が描かれている。それを反映した④が正解。

16. *escalate* は日本語の「エスカレートさせる」とほぼ同じ意味の他動詞。文字通り捉えれば③のような意味にもなりうるが、ここでは *Reg* の病状について述べる中で「これらすべてがエスカレートしていった」とあることから、文脈的に *worsened* 「悪化した」と同義であると考えるのが妥当。
17. *sec 5* 第 2 文に、*Reg* がかつて入水自殺をすることを示唆していたとする記述があるため、それを反映した③が正しい。
18. *fed up to the (back) teeth* は「飽き飽きしている、うんざりしている」という意味の表現なので、③の意味に最も近い。仮にこの表現そのものを知らなくとも、*be fed up with* ～ は重要熟語であるので、そこからの連想は可能なはず。
19. *learn on the job* とは「仕事を通じて学ぶ」ということ。いわゆる *OJT* (=on-the-job training) という表現を知っていれば理解は容易い。ここでは *Susan* が *Reg* の世話を通じて *caregiver* としてのあり方を学んだという文脈なので、それを反映した③が正しい。
20. *sec 7* 内の *Susan* の発言、特に第 3～5 文にかけて、自らは単に *caregiver* として学ぶ必要があったというのみで、真に苦しい思いをしたのは *Reg* の方である旨が語られている。それを反映した②が正しい。

### PASSAGE 3

21. ④                      22. ②                      23. ④                      24. ④                      25. ①  
 26. ④                      27. ②                      28. ④                      29. ②                      30. ③

#### <解説>

21. *sec 2* で挙げられている地域の地理的な位置、また地球温暖化が原因と考えられるということから、かつては *tropical* 「熱帯」地方特有の病気がアメリカでも見られるようになっていくということ。
22. *gain a foothold* で「足がかりを作る」という意味の熟語。ある病気の形態が確立し始めているということ。
23. *sec 4* で、*peer review* 「査読」までは *preliminary* 「予備的な」ものだと述べられている。
24. 補語が *place* であることから、主語 *it* は直前の *the planet* を指している事は明らかだが、選択肢の中では *the world* とパラフレーズされている。
25. *sec 7* で *without proper screening* と述べられており、「検査体制」が不十分であることが示唆されている。
26. *sec 9* で *It's great that ...* と、筆者は保護団体の活動に理解を示しつつも、*sec 10* で *There needs to be* ～ と感染症対策のさらなる充実が必要と訴えている。
27. *people who travelled to endemic areas* のパラフレーズとして、*prevalent areas* への旅行者が適切。
28. *sec 17* の最後の文で、アメリカの多くの地域、特にアメリカ南部で見られると述べら

れており、アメリカに固有の sand flies であることが示唆されている。

29. doctors' radars という比喻は、皮膚リーシュマニア症という新たな感染症に警戒すべしという意味。

30. sec 20 に climate change とあり、これは地球温暖化のことに他ならない。

【総評】

大問構成・出題形式ともに例年通り。本年度 N1 期の二次は、使用される語彙の難度に比べて注の量が少ないなどやや難化傾向にあったが、N2 期では例年通りの難易度に戻ったと言える。特に PASSAGE1・2 は非常に易しく、それだけ高得点域での戦いになるであろう。最終合格には 80%以上の得点が望まれる。

本解答速報の内容に関するお問合せは



メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

